

# 令和7年度 学校評価アンケート結果

## 1 回答者

生徒375名 保護者214名 教職員25名

【令和7年12月2日（火）～19日（金）に実施】

## 2 回答方法

各質問事項に対して、「そう思う」「ほぼそう思う」「あまり思わない」「思わない」「どちらともいえない」の5段階の回答を依頼し、「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的回答、「あまり思わない」「思わない」を否定的回答として調査結果を分析しました。

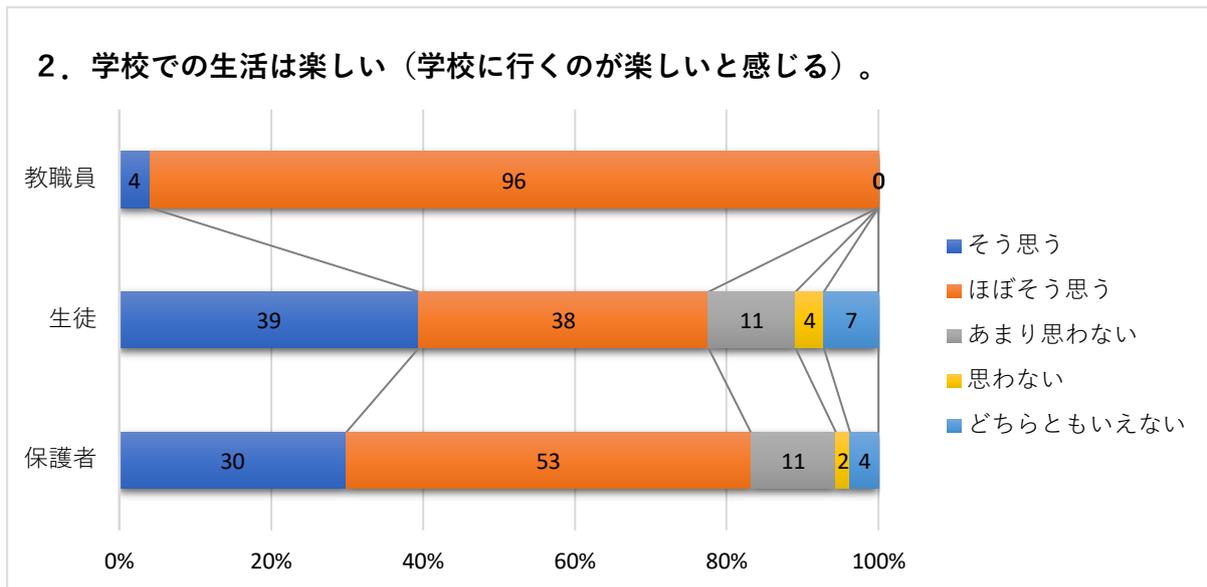
## 3 結果の活用

調査結果は1月にとりまとめ、すべての教職員に配付し課題と改善点を明らかにした上で、令和7年度の学校運営や教育方針、さらには重点目標に反映させていきます。また、保護者や運営協議会委員にも調査結果を提示してご助言をいただき、改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。

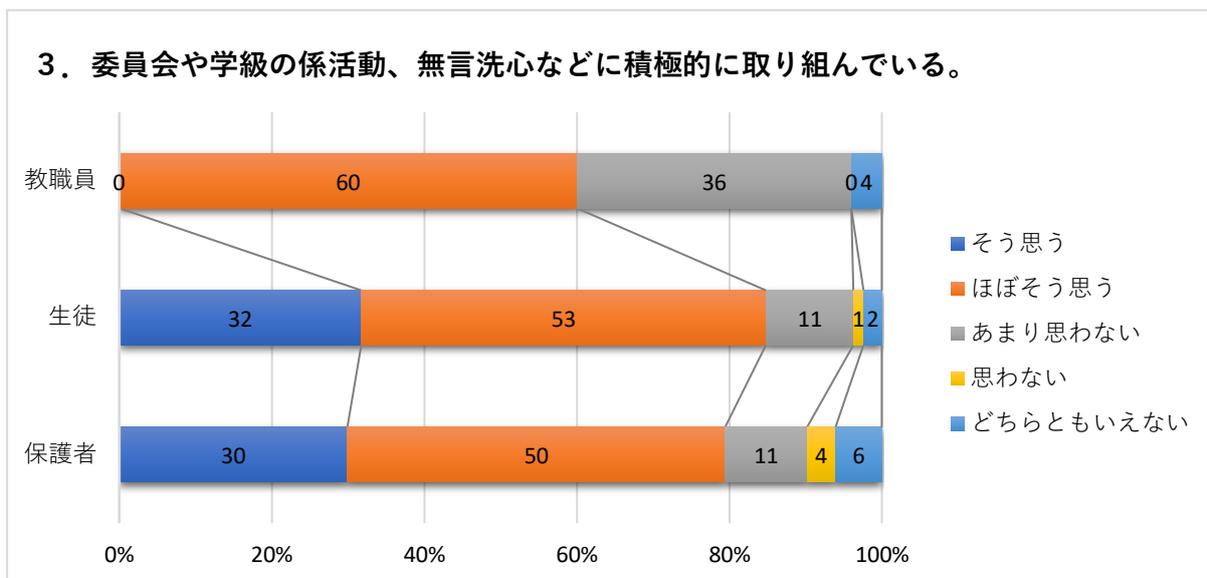
阿南市立羽ノ浦中学校

グラフ内の数字は全体に占める割合（％）を示しています。

### 1. 所属学年について（グラフは割愛）

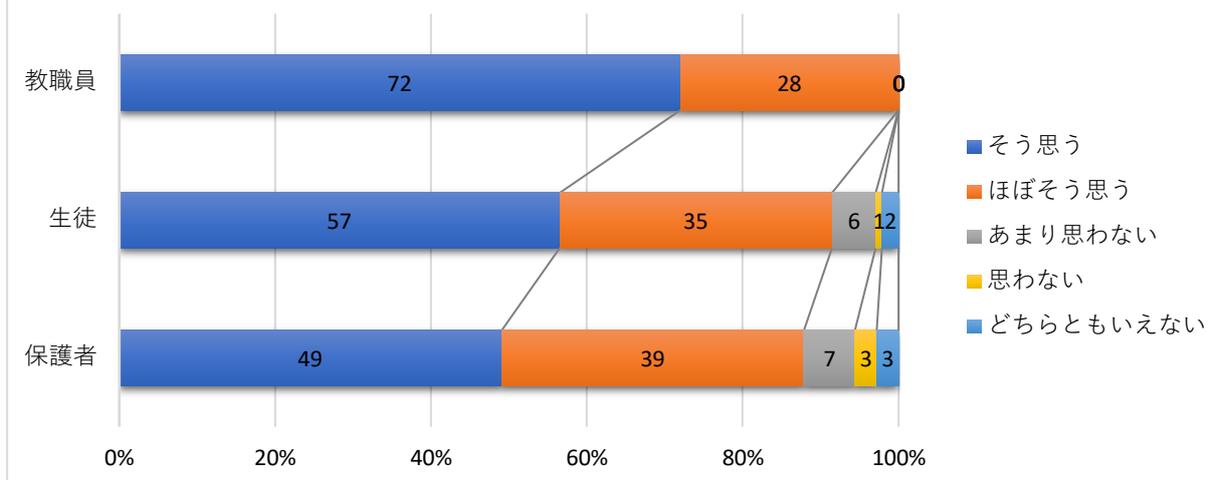


肯定的回答が、生徒77%、保護者83%、教職員100%となり、それぞれ令和6年度とほぼ同じ結果になりました。しかしながら、生徒の約15%は否定的回答となっている結果を教職員は真摯に受け止め、すべての生徒が「楽しい」「行きたい」と感じられるよう、生徒一人一人への丁寧な指導や支援の充実に努め、生徒の健やかな成長をめざし学校づくりを進めてまいります。



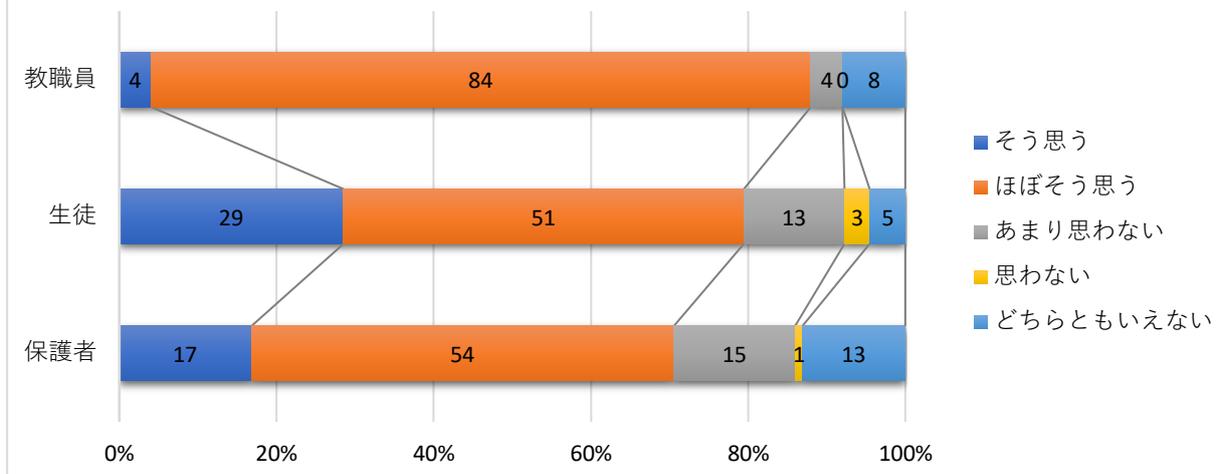
肯定的回答が生徒85%、教職員82%、保護者80%となっており、多くの生徒が自分の役割を自覚し、責任をもって役割を果たそうとしていることがわかりました。今後もポジティブな行動支援の観点から、生徒の頑張りを肯定的に認め褒めることで、自己有用感を高められるよう、指導を継続していきます。

#### 4. 運動会や文化祭などの学校行事や部活動に積極的に取り組んでいる。



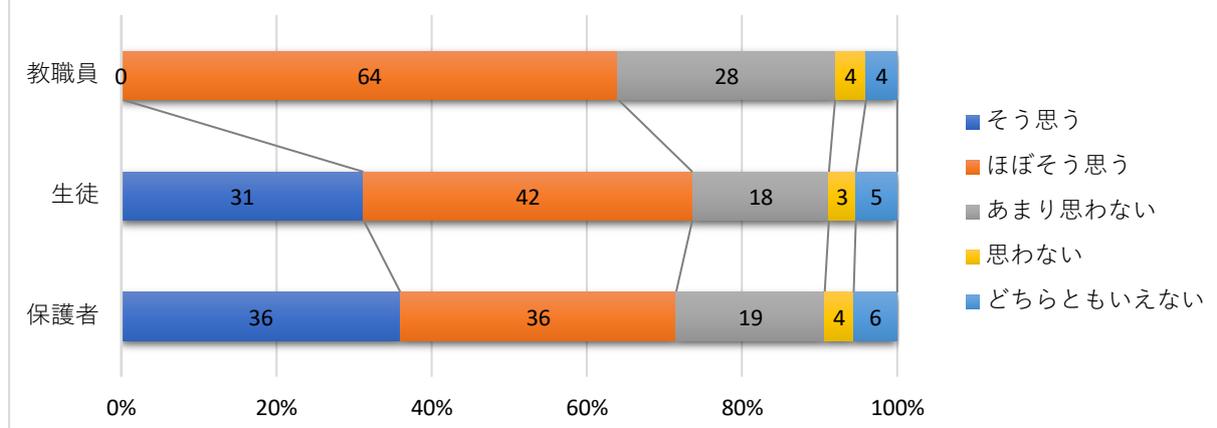
生徒と保護者の約90%近く、教職員の全員が肯定的回答となっており、多くの生徒が学校行事や部活動に積極的に取り組んでいることがわかります。その一方、生徒と保護者の中には否定的回答も若干数あるため、学校行事や部活動に取り組みにくい原因や困り感を把握し、適正な運営に努めてまいります。

#### 5. 学級には、互いを認め合う雰囲気がある。



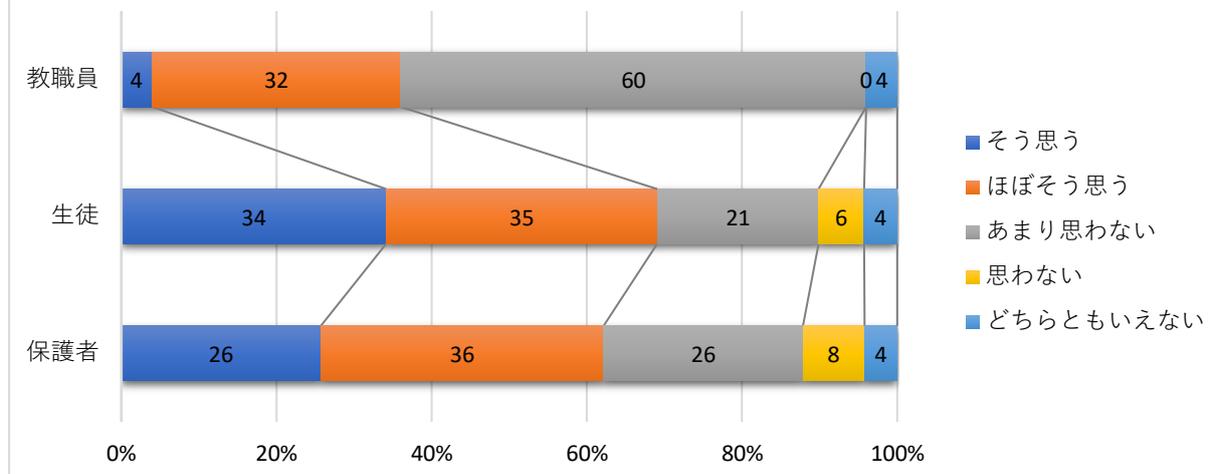
生徒80%、保護者71%がそれぞれ肯定的回答、教職員は88%と、結果に少し開きが見られます。学校・学級という集団の中で円滑に生活を送るために、互いのよさや違いを認め合い、人権を尊重することは極めて大切なことです。学校生活の様々な場面で人間関係づくりのスキルアップを目的とした活動を効果的に実施し、互いを認め合う雰囲気の醸成に努めてまいります。

**6. 時間にゆとりをもって登校したり、3分前着席をしたりするなど、時間を見て行動できている。**



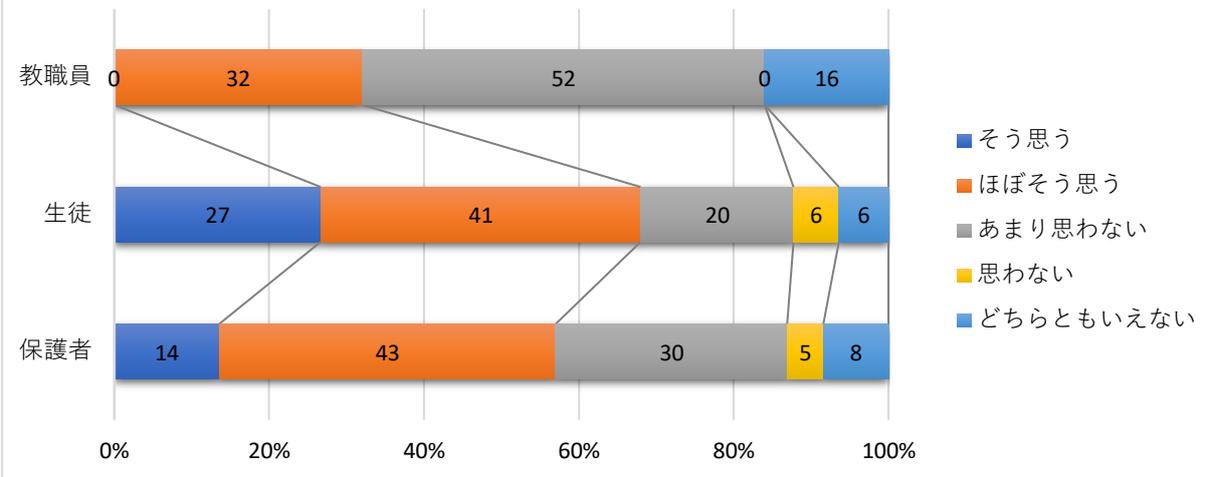
生徒73%、保護者72%がそれぞれ肯定的回答となり、昨年度とほぼ同等の結果となりました。本校では「ノーチャイム」「3分前行動」に長年取り組んでおり、重点指導事項に位置付けています。今後も、なぜ時間を見て行動する必要があるのか、また、そのメリットについて生徒に理解させた上でタイムマネジメント能力の育成に取り組んでまいります

**7. 毎日家庭学習に取り組んでいる。**



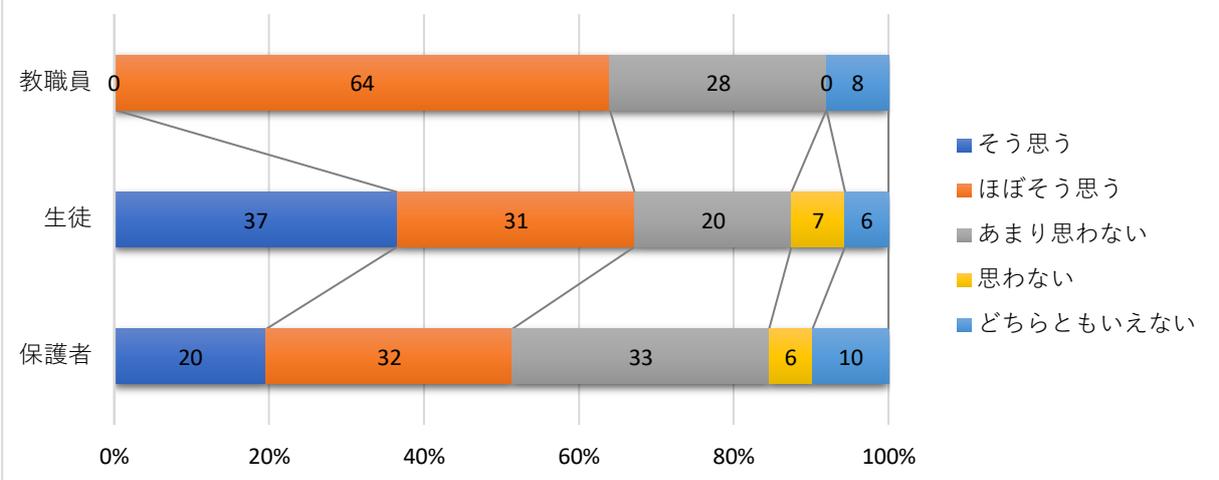
肯定的回答は生徒69%、保護者62%、教職員36%となり、結果に大きな差が見られました。その要因としては、塾や習い事での学習量を学校側が把握できていない点も挙げられますが、宿題や課題に取り組めていない生徒がいることが挙げられます。今後も、自主学習ノートや各教科の宿題だけに限らず、自ら課題を見つけ、主体的に学ぼうとする姿勢の育成に向けて取り組んでまいります。

### 8. 学校や授業で学んだことを生活の中で活用しようとしている。



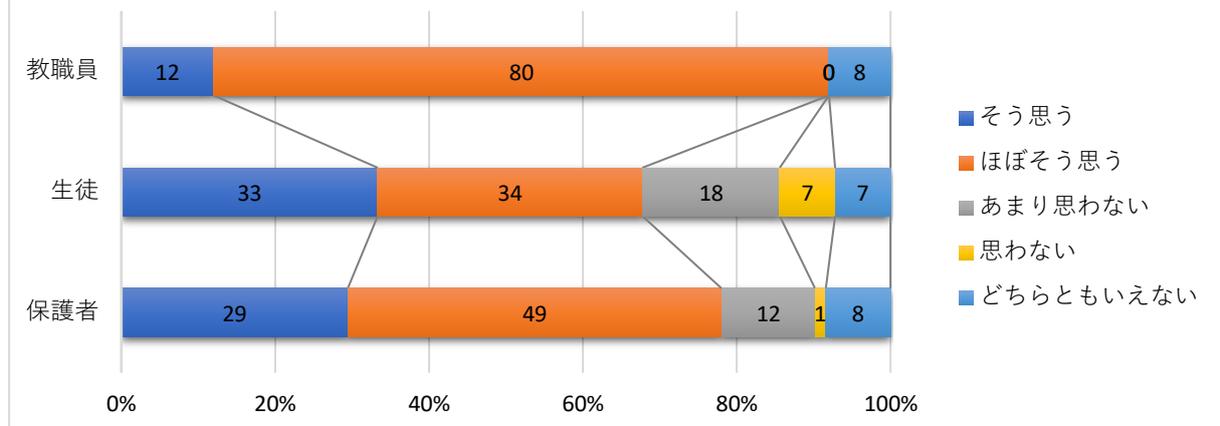
肯定的回答が生徒68%、保護者57%、教職員32%と結果に大きな差があります。各教科だけでなく、学校行事や人権学習、部活動で学んだことと自分自身の日常生活とを結び付け、自分事として考える習慣を身に付ける必要があります。そのためには、教職員はこれまでの指導方法を見直し、これまでの学びと関連付けながら指導するよう努めてまいります。

### 9. 自分の進路について考え、夢や目標をもって生活している。



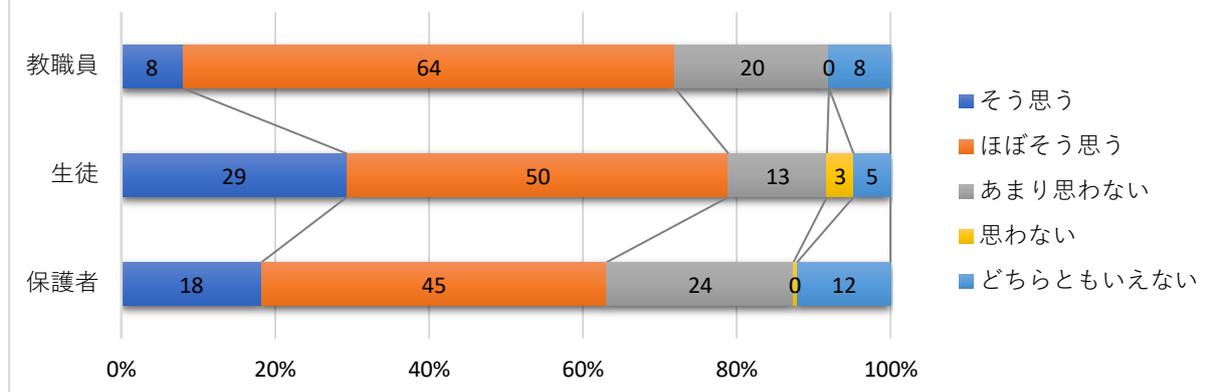
肯定的回答は、教職員64%、生徒68%、保護者52%と、少し差がある結果になりました。学校のあらゆる教育活動を通じて、自己実現に向けた目標を意識させることが大切です。今後、キャリア教育のさらなる充実を図るとともに、実践的・体験的な学習を通して自分の夢を描き、自己実現のために継続して努力できる生徒の育成をめざします。

## 10. 自分は大切な存在であり、自分にはよいところがあると思っている。



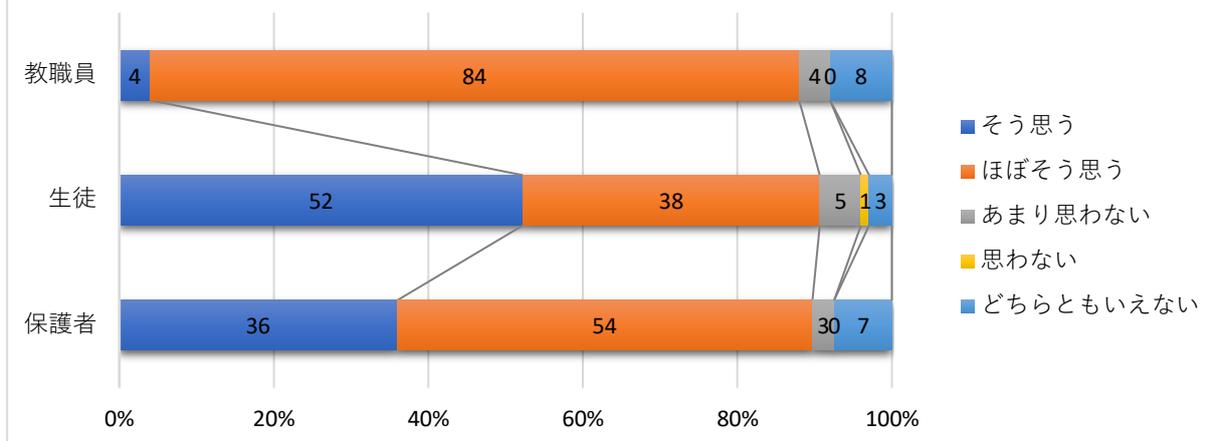
生徒の肯定的回答は67%となり、昨年度から5ポイント増加しています。生徒がありのままの自分を「大切な存在」と受け入れられるために、まずは大人が子どもたちに「あなたは大切な存在である」ことを惜しみなく伝え、接することが大切です。今後も学校の全ての教育活動に人権教育の視点を位置づけ、互いのよさや違いを認め合える雰囲気の醸成により一層努めてまいります。

## 11. 道徳などの時間に、自分自身の生き方について考えている。



生徒の肯定的回答は79%で、昨年度とほぼ同じ結果となっています。一方で、保護者の否定的回答が昨年度より増加していることから、学校での学習内容や生徒の成長について、家庭への共有が十分ではないと考えます。学校では、あらゆる教育活動を通して自分自身の生き方や望ましい人間関係について考える機会があります。そこでの学びをその場だけのものとせず、実生活に生かしてこそ意味があるものです。生徒のよりよい自己実現に向けて、教育活動を充実させるとともに、道徳ノートや人権ファイルを持ち帰り、学年通信や学校ホームページでの情報発信を効果的に進めてまいります。

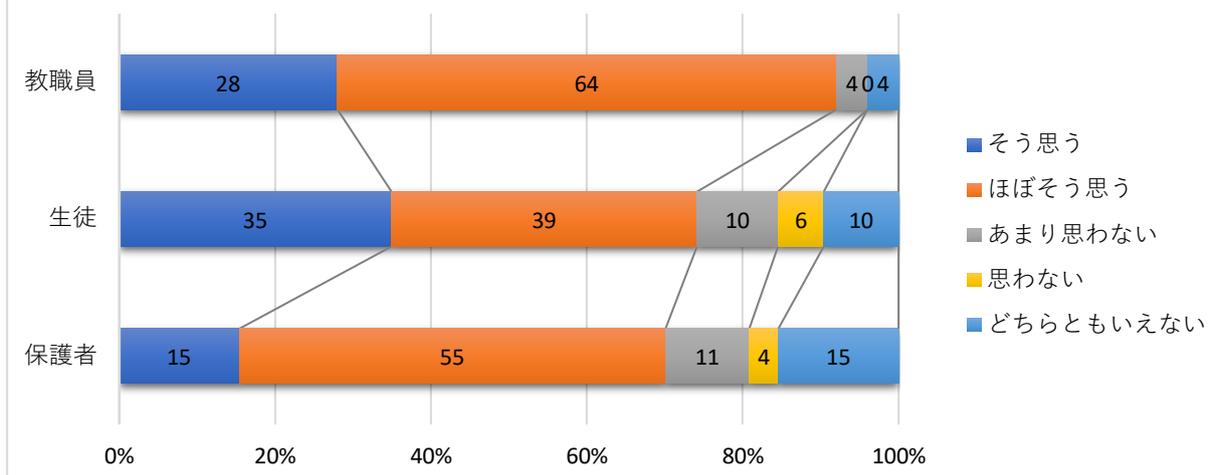
## 12. いじめや暴力を許さず、よりよい友人関係をつくっている。



肯定的回答が教職員、生徒、保護者ともに約90%近い結果となっています。しかしながら、否定的回答が若干あることから、「いじめや暴力がないわけではない」ということが読み取れます。

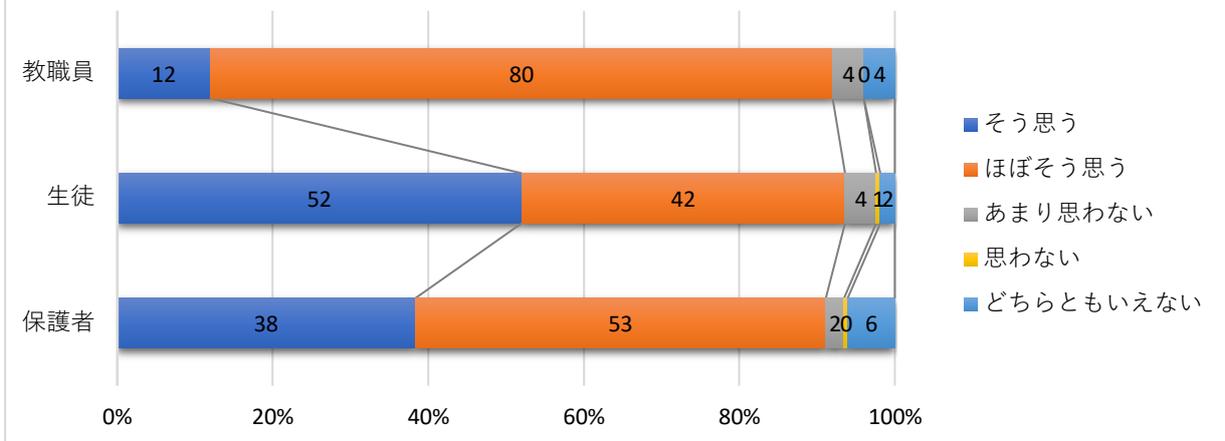
「いじめや暴力はいけない」と分かっているにもかかわらず、自分ならどんな行動ができるのかを自分事として考える学習をより一層推進していきます。また、いじめや暴力を許さない仲間づくりの機会を意図的に設定し、よりよい友人関係を構築できるよう推進していきます。

## 13. 先生は友達とのトラブルや悩みについて素早く対応してくれる。



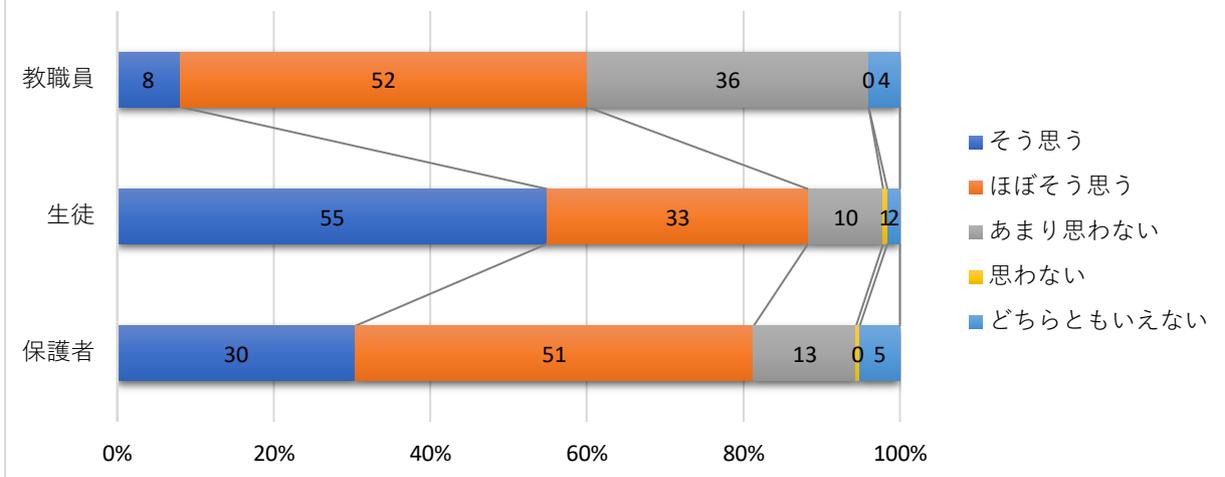
教職員は92%が肯定的回答なのに対し、生徒74%、保護者70%にとどまっており、大きな差があります。学校は教職員が事実を把握したり生徒や保護者から相談を受けたりした場合、学年や学校全体で素早く事実確認をし、問題解決に努めていますが、把握できていないものや解決に時間を要する場合があります。今後も生徒の心情に寄り添い、安全で安心できる学校をめざして、生徒支援や個別の対応、丁寧な指導に努めてまいります。

#### 14. 学校や社会のルールを守って生活している。



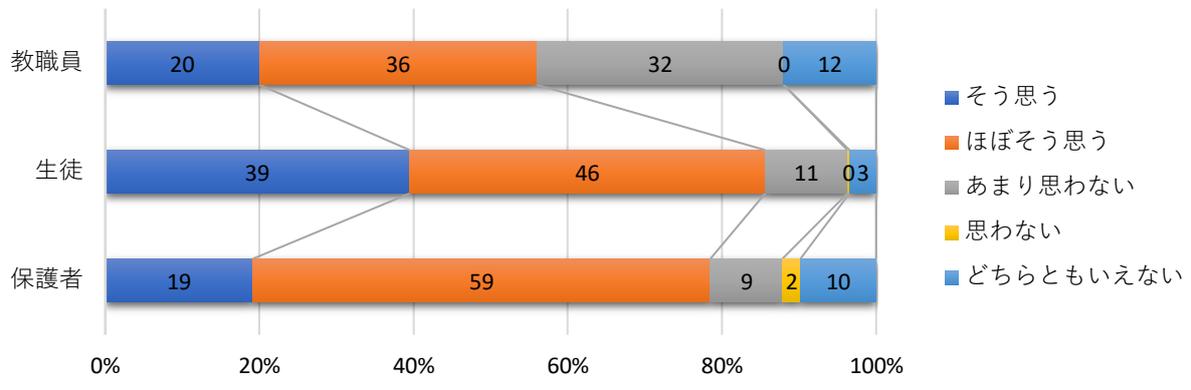
教職員、生徒、保護者ともに90%以上が肯定的回答でした。この結果から、多くの生徒が規範意識を高くもち、落ち着いた学校生活を送ることができています。今後も保護者のご理解とご協力を頂きながら、放課後や休日の生活においても羽中生としての自覚と誇りを持ち、ルールを守った安心・安全な生活が送れるよう指導していきます。

#### 15. 友達や先生、地域の人にあいさつができています。



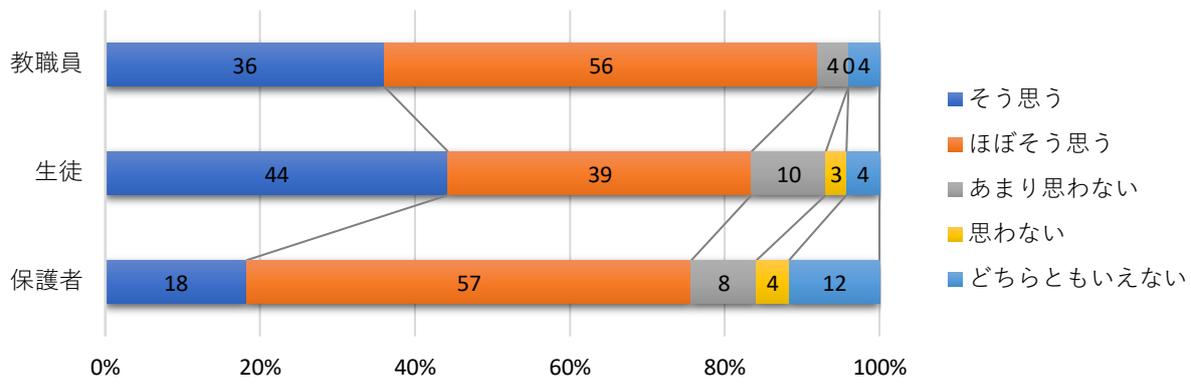
生徒と保護者の肯定的回答は昨年度と同等だが、教職員の肯定的回答は昨年度より29ポイント減少しています。本校では、生徒会を中心に生徒全員が交代で毎朝のあいさつ運動に参加しています。また、授業の号令や校内ですれ違った際、部活動でも気持ちのよいあいさつをすることを奨励しています。そうした習慣を定着させるために、教職員が率先してあいさつできるよう、取り組んでまいります。

**16. 自分の考えや意見を伝えるために、場に応じた言葉遣いができている。**



肯定的回答は生徒85%と昨年度より微減であるのに対し、教職員56%と大幅に減少した結果となりました。場に応じた言葉遣いは、相手への敬意や自分の考えを正確に伝えるためのコミュニケーションの基本となります。今後も学校生活の中で自分の考えや意見を適切に伝えられるコミュニケーション能力が身に付くように、ペア・グループワークの機会を増やすなど、言語活動の充実に努めてまいります。

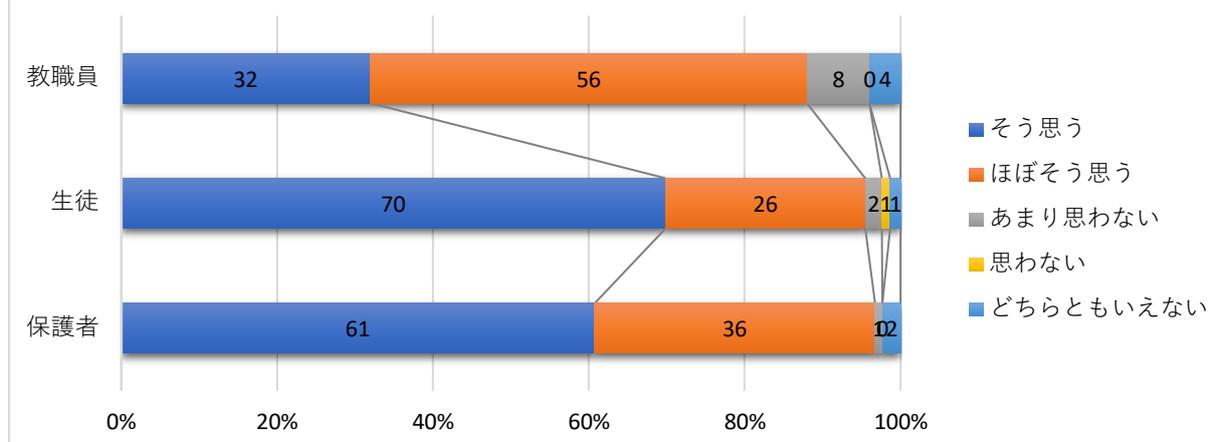
**17. 先生は、一人一人の生徒を大切に、頑張りやよいところを認め、公正・公平に接している。**



肯定的回答が教職員92%に対し、生徒83%、保護者75%となり、結果に差がありました。肯定的回答がある一方で、否定的回答も見られるため、教職員は一人一人の生徒を大切に、公平・公正に接することができるかどうか、日頃の言動や接し方について真摯に向き合い、改善していく必要があると考えます。

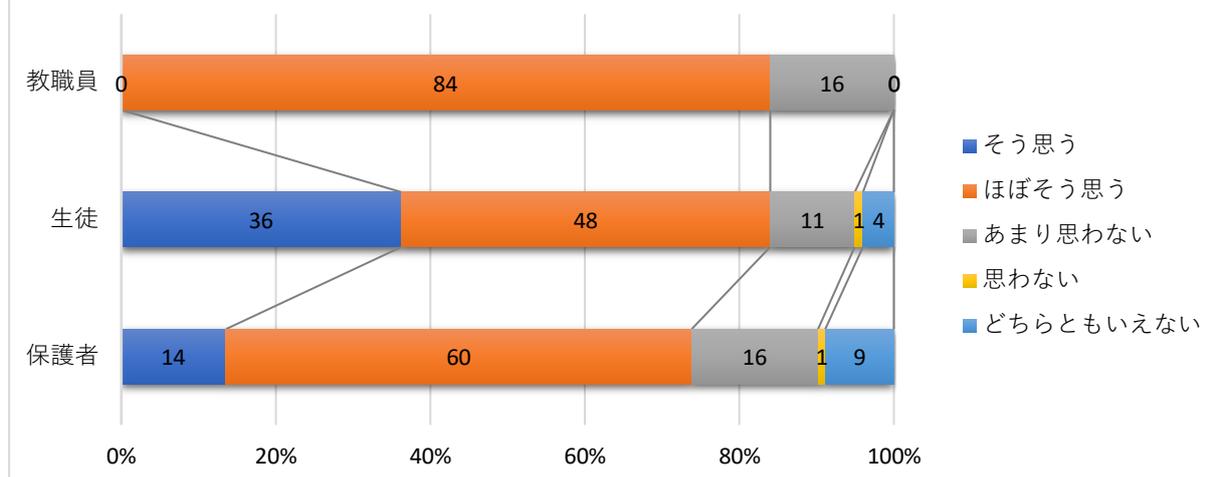
また、学習指導において、すべての生徒が「わかる」「できる」授業を実現するために、日々授業改善を行い、学習活動の充実に努めてまいります。

### 18. 交通ルールを守り、ヘルメットや反射たすきを着用している。



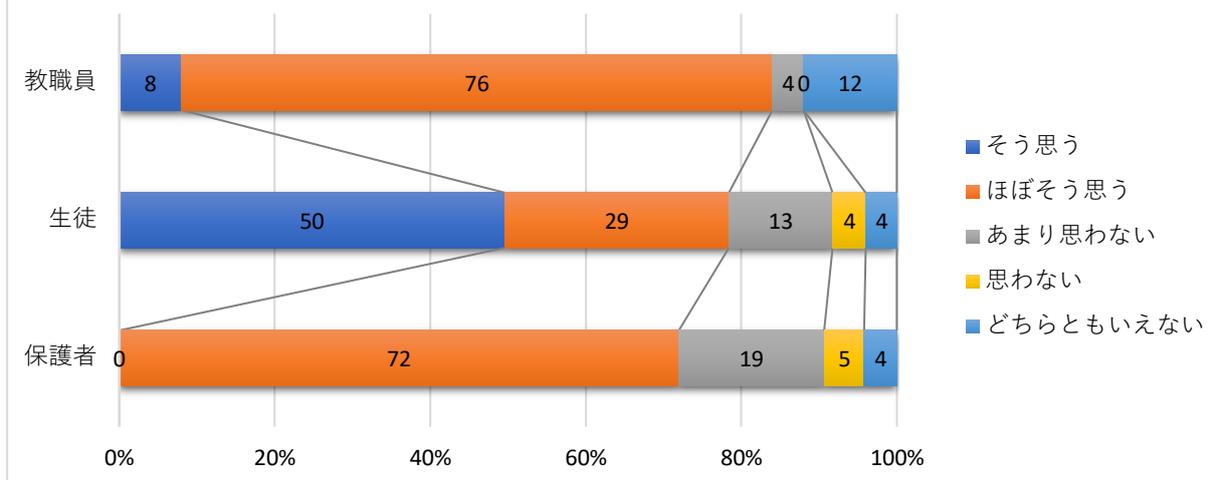
肯定的回答が、教職員、生徒、保護者ともに90%近く、交通ルールはおおむね守ることができていると考えられます。しかしながら、ヘルメットや反射たすきは着用できているものの、交通ルールの遵守という点では、法令の認識と判断・行動が不十分な場面も見られるため、今後は自転車に関する新たな法令に関する学習と同時に、危険運転防止と合わせて危険を予測する運転ができるよう、丁寧に指導してまいります。また、家庭での自転車の乗り方については、保護者にもご理解ご協力をいただけるよう、PTAとも連携してまいります。

### 19. 事故や災害等、危険の予測やその回避の方法を知っている。



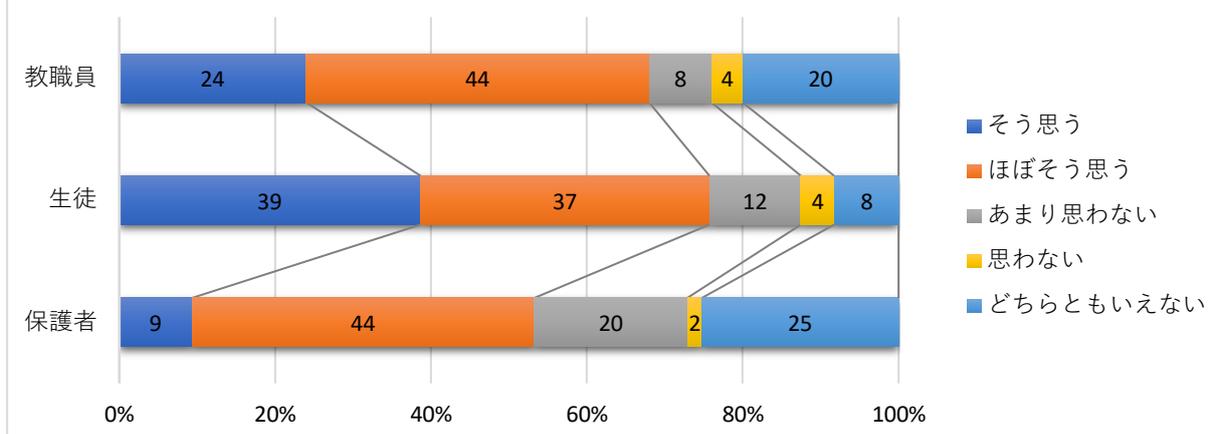
肯定的回答はそれぞれ80%近い回答となっています。学校では、防災に関する学習や避難訓練などを実施していますが、学習した内容が日常生活の中での危険予測に結び付いていない場面も見受けられます。今後もあらゆる機会を通じて防災・減災の意識を高め、行動に移せる生徒を育成していきます。

## 20. 「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣が身についている。



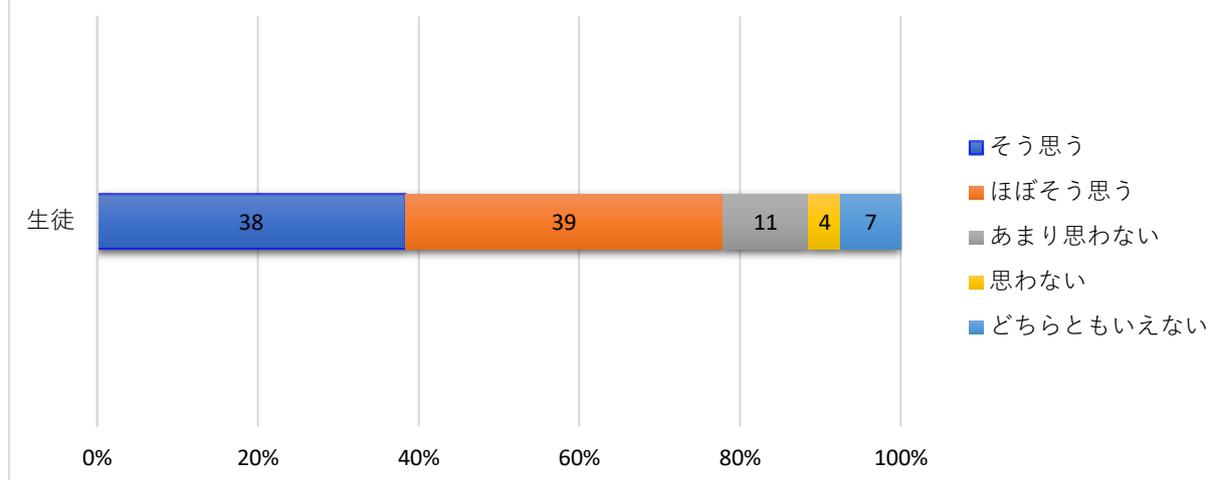
肯定的回答は各対象で70%を超えているものの、生活習慣に課題が見られる生徒も一定数いることがわかりました。基本的な生活習慣の確立は、学力や体力の向上につながります。朝食を毎日食べる習慣や健康な体づくりができるよう阿南市が取り組んでいる「食育パワーアップ作戦」と合わせて、家庭でのスマホ・ゲームの適切な使用時間についても保護者と連携しながら基本的な生活習慣の確立に取り組んでいきます。

## 21. 生徒・保護者：ICT活用（タブレットやプロジェクターなど）で授業がわかりやすくなった。教職員：授業を改善することができた。



生徒の肯定的回答は76%となり、昨年度とほぼ同じ結果となりました。一方、保護者の肯定的回答は53%にとどまっていることから、家庭に対するICT活用事例の紹介に課題が見られます。教職員の質問では肯定的回答が昨年度より6%増加しており、ICTを活用した授業実践が定着しつつあるといえます。ICTの効果的な活用と合わせて、授業ユニバーサルデザインの視点に立った誰もが「わかる」「できる」授業づくりを今後も研究していきます。

## 2.2. 生徒のみ：阿南市というまちが好きだ。



生徒の肯定的回答は77%で、昨年度と同じ結果になりました。誰にとっても生まれ育ったふるさとはかけがえのない場所であり、ふるさとに誇りをもつことは人口減少を食い止める大きな要因の一つです。ふるさとについて知り、ふるさとについて考えることができるよう、本校では地元高校等と連携した出前授業や地域と連携したボランティア活動を積極的に進めているところです。次年度も、学校運営協議会や地域団体と連携し、持続可能な地域連携を模索していきます。

全学年：授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」  
喜びを感じることができる

